

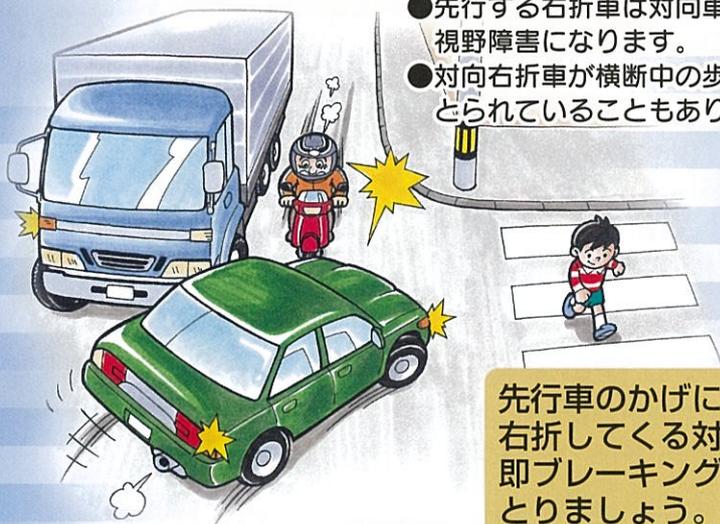
思っているほど

見られてない!!!

たとえば

先行する右折車の左わきを直進するとき

- 先行する右折車は対向車線の右折車にとり視野障害になります。
- 対向右折車が横断中の歩行者に気をとられていることもあります。



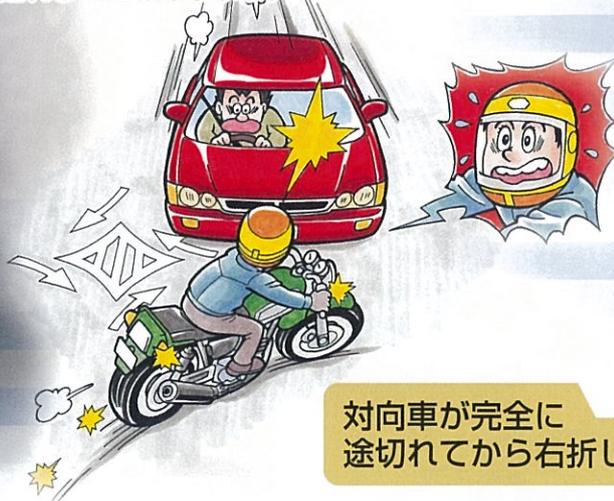
先行車のかげに右折してくる対向車を予測し、即ブレーキングできる態勢をとりましょう。



たとえば

交差点で右折するとき

- 対向車線の直進車がバイクの速度を実際よりも遅いと感じたり、距離も遠いと感じているかもしれません。
- また、対向直進車がわき見をして、バイクに気づくのが遅れることもあります。



対向車が完全に途切れてから右折しましょう。



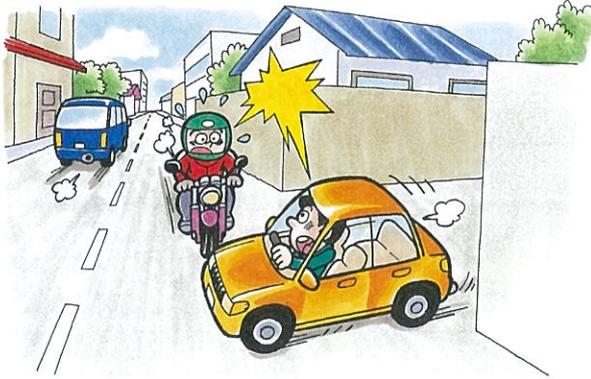
自動二輪車と原動機付自転車の宿命的な弱点は、車体が小さいために四輪自動車から見落とされやすいこと。これは、四輪車との事故の多くが、二輪・原付の方が被害者になった「もらい事故」とあるという実態からも明らかです。“危ないクルマ”がバイクを見落としているかもしれません。自分からすすんで安全を確保しましょう。

オートバイ&
ミニバイクは

こんなクルマから 見落とされるかも... いるかも!!

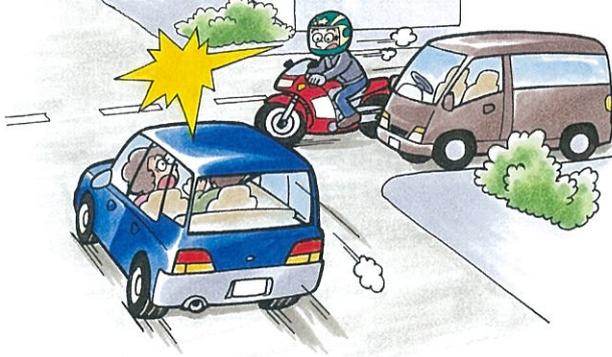
左前方のわき道から 出て来る交差車両

- 交差路の存在を常に意識し、交差車両の有無や動きをしっかりと確かめましょう。



駐停車車両の かげから来る交差車両

- 駐停車車両で隠れた部分が見える位置まで、速度を落として慎重に進行しましょう。



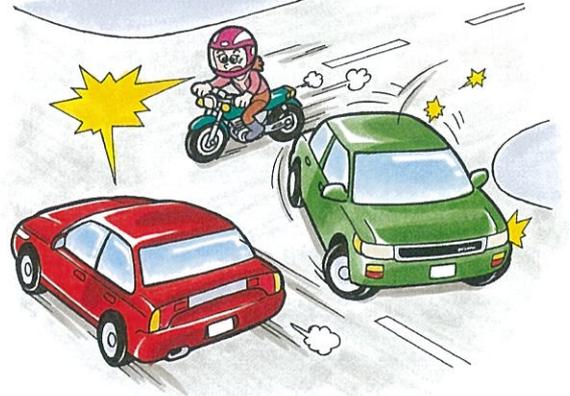
渋滞車両の すき間から出て来る交差車両

- 前方に交差路があり、渋滞車両の間もあいていたら、ブレーキング態勢で進行しましょう。



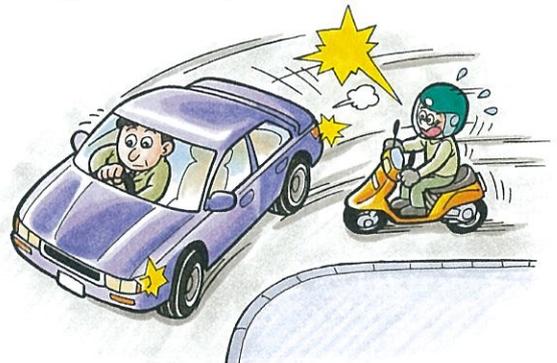
左折する前車のかげから来る交差車両

- 前車をかわして右に進路変更するときは、十分速度を落とし安全を確かめながら進行しましょう。



左折の合図を出している 右手の並進車両

- 速度を落として左折車の死角から出たり、一時停止をして左折車をやり過ごしましょう。



歩行者の動き にも注意

歩行者を発見したら、速度を落としていつでもブレーキングできる態勢をとるとともに、その動きに目を光らせましょう。



「もらい事故」にあわない走り方をしよう!